

テーマ 「病理解剖の知識を高めよう！（基礎編）～介助および感染対策について～」

主催 病理検査研究班

実施日時：令和4年5月12日（木） 18時00分～19時00分

Web環境

点数：基礎教科－20点

講演1：「病理解剖介助の基礎 ～スムーズな介助を目指して～」

講師：福島 雅人（埼玉医科大学 病理学）

講演2：「病理解剖における感染対策」

講師：富永 晋（防衛医科大学 臨床検査医学講座）

司会：関口 久男（埼玉県済生会栗橋病院）

参加人数：会員 276名

出席した研究班班員：関口久男、森田繁、高橋俊介、小島朋子、細沼佑介、今村尚貴、遠山人成、松本祐弥、三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は「病理解剖の知識を高めよう！（基礎編）～介助および感染対策について～」をテーマに2名の講師にご講演いただいた。

福島氏からは、自施設で行っている Virchow 法による解剖手技について、実際の画像とイラストを交えてわかりやすくご講演いただいた。メスの入れ方や角度、縫合時の工夫、頭蓋骨切断時のアーティファクトを防ぐ工夫など、すぐに現場で使えるテクニックを教えてください、有意義なものとなった。

富永氏からは、病理解剖時の感染対策について、自施設の剖検室の紹介を交えて、ご講演いただいた。病理解剖においては、感染経路を遮断することに重点を置き、設備上の感染対策、個別保護具による対策が挙げられた。また、個々人が気を付ける対策として、使用器具を汚れたまま乾燥させない（飛沫の原因となる）など、つい忘れてしまいがちなことについて注意喚起していただいた。富永氏からも提示があったが、病理解剖における感染対策については、日臨技ホームページを始めとして、種々の文献等で情報提供がなされており、常日頃から情報収集を行って意識を高めておくことも大切であると考えられる。

解剖症例数が減少傾向にある昨今、現場で行えない基本的な解剖介助手技と感染対策の知識を、本研究会から得ていただければ幸いである。

（文責：三鍋 慎也）